

# 【参考資料】

取組に関する意見一覧表

No	取組内容（委員提案）	プランでの反映先（基本方針）
1	県と公益財団法人やまぐち産業振興財団では、カーボンニュートラルをビジネスチャンスと捉える企業の脱炭素関連製品等の売り込みの支援をしている。その新事業展開と販路拡大につながるセミナーの開催。	3 脱炭素型まちづくりの推進
2	脱炭素に特化したセミナーではないが、講師の方にお願いして脱炭素化についても触れ、意識付けを図っている。中小企業省力化投資補助金等の <b>補助金や脱炭素セミナーの広報</b> （会報、会員企業への訪問時等）	3 脱炭素型まちづくりの推進
3	LEDへの転換（市は補助金検討）	2 省エネルギーの推進
4	市民に対する環境意識向上を目的とした啓発活動 消費者の会では環境グッズ（環境ラベル）などを作成している。マイバック持参の啓発も行っている。	3 脱炭素型まちづくりの推進 4 廃棄物の抑制、資源循環の推進
5	近距離移動時の <b>徒歩・自転車・電動自転車</b> の利用 自家用車を電気自動車に買い替える。	2 省エネルギーの推進
6	・家庭エコ診断制度の活用 ・環境配慮商品の選択 ・住宅の新築・改築時のZEH導入 ・HEMS導入による家庭エネルギー消費のみえる化 ・太陽光発電設備・太陽熱利用設備・木質ペレットストーブ・蓄電池などの情報収集による環境への関心を深めるとともに、導入時には近隣との共存に配慮 ・V2Hを導入し、電気自動車の大容量バッテリーを家庭内で利用	1 再生可能エネルギー利用の推進 2 省エネルギーの推進 3 脱炭素型まちづくりの推進
7	企業の <b>技術相談のマッチング</b> や問い合わせ応答にAIを活用	3 脱炭素型まちづくりの推進
8	・市のweb情報を参考に <b>熱中症予防、感染症蚊の発生情報について把握</b> し、注意を怠らないようにする。 ・ <b>災害時の優先行動</b> をイメージし、年に一度は個人・家族での演習を行う。 ・電柱のない街づくりは美観アップ・歩行・交通にとても安全性が確保され、かつ災害時の停電や断水等が防げる。市はライフラインの地中化を推進する。 ・WEBサイト「GX+気候変動」による気候変動適応策への問い合わせ受付	6 気候変動への主な適応策
9	・新築、改築時のZEB導入 ・クールビズ、ウォームビズの実践や照明、空調の省エネ	2 省エネルギーの推進
10	・天然ガスなどの <b>地球温暖化への影響が少ない燃料への転換</b> ・メタネーション、水素、アンモニア利用への燃料転換の <b>推進計画</b> を企画 ・ケミカルリサイクルの油化技術などによる <b>廃プラ利用などを通じた原料転換による化石資源の削減</b>	1 再生可能エネルギー利用の推進 4 廃棄物の発生抑制、資源循環の推進
11	・水素製造、CO2分離、メタノール合成などの研究開発、コスト削減、高効率化などの革新的技術の開発とともにカーボンリサイクルの社会実装に関心をもち、情報収集に努める。 ・水を大量使用する工場や農場内の水路や河川に小規模な水力発電の導入	1 再生可能エネルギー利用の推進 3 脱炭素型まちづくりの推進
12	環境マネジメントシステム：ISO14001またはエコアクション21の認証取得に取り組む。	3 脱炭素型まちづくりの推進
13	DXを積極的に利用し、業務の効率化、紙使用の削減に取り組む。	2 省エネルギーの推進

14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下水道、雨水排水施設の整備点検</li> <li>・災害時における優先業務の決定</li> </ul>	6 気候変動への主な適応策
15	省エネ、低炭素製品、サービス、行動など温暖化対策に向けて市のwebサイトにわかりやすく公開し、普及に努める。	3 脱炭素型まちづくりの推進
16	公共施設（市役所・市民病院・市立大学など）の適正管理によるエネルギーの効率化を図るBEMSの導入	2 省エネルギーの推進
17	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公用車を適時環境にやさしい電気自動車（EV、PHV、FCV）に替える。同時に、急速充電器あるいは水素タンクを設置する。</li> <li>・晴天時の近距離移動には、電動自転車あるいは燃料電池バイクを使用する。</li> </ul>	2 省エネルギーの推進
18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AI利用に積極的に取り組み、GX業務の効率化を図る。</li> <li>・水素エネルギーなどのクリーンエネルギーへの関心のある実証実験の課題調査・研究、人工光合成の高効率光触媒の開発など、市が推奨するGX関連情報をwebサイトに紹介</li> </ul>	3 脱炭素型まちづくりの推進
19	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校舎屋上に太陽光自家発電設備を設置して発電し、電力使用量の削減と温室効果ガスの削減を行う。</li> <li>・高効率の空調機器の導入により電力使用量を抑制する。</li> </ul>	1 再生可能エネルギー利用の推進
20	毎月1回、ノーマイカーデーを設定し、CO2排出量の削減に努める。	2 省エネルギーの推進
21	環境に関する授業科目を設定し、教育活動を通してエネルギー削減や地球環境に及ぼす温室効果ガスの影響などの理解を深め、環境意識の高い技術者や薬剤師の育成に努める。	3 脱炭素型まちづくりの推進
22	CO2排出抑制や有効利用に関わる研究開発、化石燃料代替エネルギーとしての水素の製造または利用促進に関する研究開発を通してGX推進を支援する。	3 脱炭素型まちづくりの推進
23	<p>GX推進パートナー企業制度（仮）の設立</p> <p>GX推進に取り組む市内の企業に対し、ZEBの導入等GXの取組に対し新たな補助金を創設するとともに、市のHP等で企業名を公表し、企業のイメージアップに繋げる。</p>	3 脱炭素型まちづくりの推進
24	<ul style="list-style-type: none"> <li>・太陽光、風力、その他非化石エネルギーを永続的に利用</li> <li>・廃油（家庭の食用油）を有効活用</li> <li>・乗用車のEV化、ノーマイカーデーの制定（乗合通勤）、近距離の自転車使用</li> <li>・新太陽電池「ペロブスカイト」を推進</li> </ul>	1 再生可能エネルギー利用の推進 2 省エネルギーの推進
25	小野田港湾脱炭素化推進協議会は、本市の産業部門におけるCO2排出量が全体の約90%を占めており重点的に取り組む必要があるという考えのもと集まっている。2050年の脱炭素に向け、企業については技術力でカバーしていくと具体的に明らかにし、進めていこうと考えている。	1 再生可能エネルギー利用の推進
26	経済産業省が出している中小企業の設備省エネ化に向けた補助金があるので企業に対して公募しようと考えている。国からの補助金で二分の一、さらに市から上乗せして補助金がでれば設備の省エネ化に取り組みやすくなる。	2 省エネルギーの推進